第5回全道展

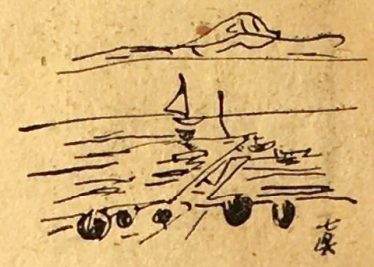
1950 ㊫ 全道

洋画材料

新しいカタログが出來ました——お立寄下さい——

岩大丸

札幌市南一條西三丁目 電話5600番



斷章

佐野四滿美

障子の雨しみを見て育つ國民だから、紙本の水墨のにじみの繪が生まれ、格子戸の小料理屋の建ちならぶ街の子供と、建築が大きな色面をなしてならぶアメリカの子供の繪のちがいは、なにかと自分だけの既成の繪畫觀を押しつける日本の教師と、子供が純粹に大膽に描くまゝにしていて、自然に自己創造していくのを、それなりに導いてというよりは、歩ませるアメリカの教師のちがいばかりではなく、生活の傳統と現狀、つまりは、繪畫創造の基盤である生活環境、生活基盤がそうするのである。その基盤に安住する限り、生活をひきいていく新しい美術など生まれることはあり得ない。二十世紀精神だなどと力んでみたところで十九世紀どころか、十八紀精神さえ身につけていない日本人だとしたら、近代繪畫というものが机上策戦圖の、概念の寄木細工にしかならないと思うのである。現實の泥路のなかに苦しみ拔いて、そこから近代精神が摑みとられ、近代藝術が創造される。

× × ×

東郷青兒氏との座談會のなかで言つたこと——デッサンというものは（新聞紙にのつていた、いや記事としてかゝれていた氏の談話のように）繪畫製作の過程としてとり扱われる、つまり最初の一年はデッサン、次の一年は水彩、油というような學校教育の教科課程のようなものではあるまい。デッサンは水彩にしろ、油にしろ、その製作と同時平行的に、たえず爲さるべきものであろう……と。これに對して東郷氏は——デッサンを否定はしていない。手はじめに抽象的な繪から入つてもかまわないといつているので、そのうちに行き詰りがきたら、デッサンをどうしたつてやらなければならなくなるし、それからはたえずデッサンを棄てない畫業が始まるものだ——と言つた。

もしも、東郷氏の言葉だからなどと、デッサン否定の後背光をかざす者がいないでもないと、その時の話

し合いをこゝにかいたまでである。

× × ×

その折、公募展覽會の功罪にもふれたが、この展覽會なら、この程度で入選するだろうなどという、展覽會入落の限界線をおいて製作するような者にいゝ繪畫は生まれないし、そんな不純な製作態度は、繪を描く道ではないということも言つた次第である。それは、出品者も審査員も、そんな考えでいる場合が、往々にしてというよりは、根強くはびこつているのが、日本の美術團體の缺點であると感じていたからである。

批評に就いて

松島正人

批評というものが兎角作者自身の上には、プラスになる場合が、案外に少なくて或は往々見當違いになつている場合も可成りあるものだと思う。そうしたことは美術などでは特に多くて、それが作家と批評家を對立させる結果になつている。

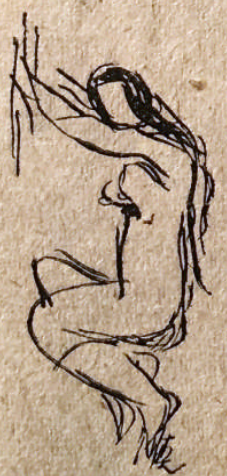
元來、批評の精神というものは、その作品の採りあげている問題が何であるか、作者がそれを如何に解釋しようとしているかを謂えなくてはならぬものなのだが、その大方はその人自身の趣味性での感想批評を出ていない場合が特に多い。

ボナールにピカソ的なものを欲したり、逆にセザンヌにゴッホ的なものを欲する樣な場合が殊に多くて、それが單なる理論上の遊戯に終つている樣な場合など、作者としては、苦笑以外にはないだろう。

作者の立場が、絶對の自己主張以外にはないのだから、萬人から滿足な批評を得ようと思うのは間違いだし、又批評家が完璧をその作者に要求するのも無理だ

優れた作家の一生涯の仕事を通じて見ても、その作者の歩んだ道巾の限定に就いては、否定出來るものではないし、それは逆説的にだからこそ、その少さなる違いと立場とが尊重されなくてはならないのだと思う

一人の作者の缺點を見出すよりも、その作者の長所



だ期待が大きいと共に、私も色々新技法の發見工夫に努力して居ります。

素描など

岡部文之助

ごくさゝやかに月々カットを描いている。Nさんが「君のカットは素晴しいよ」とほめてくれた。自分では特別いゝとも思つて居ないのに。永年出版關係の彼の目は我々とは大ぶ違う見方をするものらしい。いつだつたか繪のようにすつかりまとめたものを見せたら「今日のは全然よくない。まとまり過ぎている。何か抜げてなくちゃ……」とさんざんである。彼はカットを商品として扱う。商品であるカットは印刷されなければ價値がない。抜けていなければならない事はわかるような氣がする。何かこつがあるのだ。

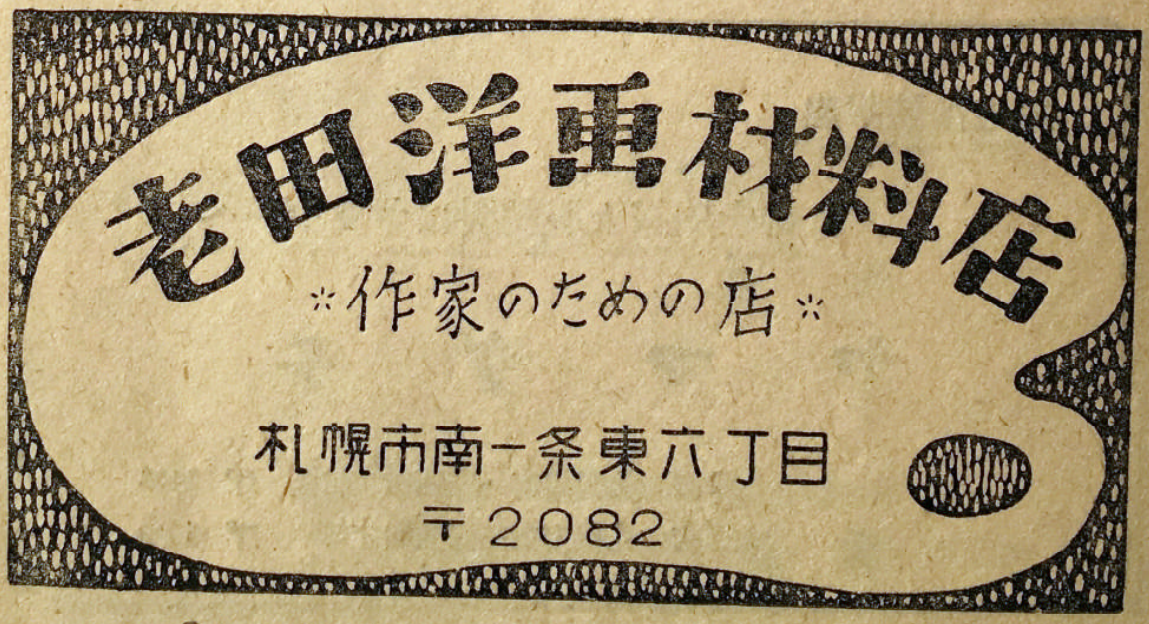
必要にせまられてペンのデッサンを描いた。畫面に流れが欲しいので鉛筆を使わず直かにペンをおろす。何枚もやつて見るがどうも面白くない。案外つまらない。何かが出てくれないのだ。マルケやボナールの素描は何かが一面にあふれて、いゝ香りとなごやかさを盛んに發散させている。あれだ。一寸した線、自分のと大した違いはないぢやないか、それなのに、……完全に頭がさがる。佛文學者のEさんにこの話をした。「ロマン・ロランと自分をくらべたら、そりやとてもかなわないや、自殺したくなりますよ。くらべないこと、くらべないこと」と。マルケやマチスやボナールに自分をくらべることが自殺ものでも、一應はくらべて見て如何に自分が貧弱であるかを確認して繪を描く事の生やさしくない事をはつきりさせたい。技術とか、魔法とか云うものではなく永年の精進によつて磨ぎすまされた力で咲いた花なのだ。一にも勉強二にも勉強。わかり切つた事なのに昨今の生活は一にも仕事二にも仕事ペンの事で追いまくられ、時たま大家の畫室でプンとくるテレピンのガスの中にすばらしい作品を見せつけられ、我身の不勉強をはじ入つてしまう。何とかしなければ……。

目錄

（順序不同）

（繪畫）

海の肖像　會員　居串佳一
とうもろこしを食う子供　會員　岡部文之助
藻岩山麓　會員　松島正人
昏雪　會員　菊地精二
札幌早春　會員　國松登
こども　會員　伊藤信夫
阿寒帶　會員　池谷寅一
牧場の一隅　會員　田中忠雄
夏の街　會員　鈴木博
蕈菜沼風景　會員　田邊三重松
献兒の日　會員　一木萬壽三
滯船　會員　森本三郎
午後の山
古潭
小憩
窓
街



雨	會員	橋本三郎
少女像	會員	岩船修三
靜物	會員	谷口玉二郎
風影	會員	小川原脩
裸婦	會員	國井澄
りんご	會員	金子幸正
風景	會員	三雲祥之助
風景	會員	小島眞佐吉
風景	會員	小川マリ子
室内	會員	上野山清貢
女	會員	高橋北修
靜物	會友	訪諏田勝衞
雪山	會友	漆崎繁雄
岬		
靜物		
サブジェクト		
夏の風景		
逆光に輝く樹々		
郊外の朝		
夕映の並木道		
聖庭あじさい		
教會堂		

生地洋裝附屬

紳士服婦人服調製はヤマグチへ

ヤ マ グ チ

本店　札幌市南一條西四丁目角　〒 2443
支店　札幌市南三條西四丁目　〒 679

老婆像	會友　松島鈴子
少女像	會友　八木保二
破上の裸婦	會友　大谷久子
コスチューム	會友　千葉七郎
浴衣	會友　角谷隆一
鏡の前	會友　天野宮藏
縞のコスチューム	山下和子（札幌）
朝の濱	岡田悟（廣尾）
小道	前野昌市（栗澤）
ピアノの上の靜物	倉茂雄（函館）
讀書の女	鈴木利彦（亀田）
猫と私	五十嵐藤俊（函館）
猫を抱ける私	平賀德行（同）
風景	小山内益郎（同）
赤い屋根の見える風景	
岩	
うすれ日の街	
樹間暮色	
緑蔭	

専門家用 ホルベイン
習作用 バイロン 油繪具と畫材

holbein

ホルベイン油繪具・畫材北海道代理店
札幌市四丁目 維新堂 〒623

全道美術協會賞

晴れた日の靜物　鎌田雛子（函館）
逆光の女　齋藤要次郎（札幌）
白い花　谷島由松（室蘭）
あぢな　淺野武彦（札幌）
燈台を仰ぐ　米坂秀則（釧路）
水郷曇日　園田郁夫（同）
追憶　照井明（苫小牧）
裏町　高橋昭（江別）
花　
選炭場　

北海道新聞社賞

壺　木村良（函館）
光　齋藤洪人（札幌）
風景　鈴木善公（苫小牧）
工場風景　川手四郎（廣島）
麥秋　小川洋子（札幌）
靜物　能登正智（苫小牧）
冬の靜物　
赤いポケット　
青い窓　

洋画材料と油絵様
一貸様の便あり
野田額様店　理小路二丁目
電一四二七
野田額様店地方部　南二西七

靜物	和仁壯六（函館）
靜物	伊藤功（士別）
黃昏れどき	中村圭次（函館）
靜物	伊藤康祐（同）
靜物	金澤祺一（苫小牧）
港暮景	伊藤幸太郎（函館）
靜物	倉澤國夫（札幌）
窓	佐藤哲夫（荻伏）
北海ホテル	久保昭義（美深）

新會友

腕を組んだ裸婦	小西葉子（札幌）
明るいバックの裸婦	高橋忠雄（夕張）
學校	因藤壽（京極）
私はこの街にすむ	

新會友

少女	柄内忠男（札幌）
靜物	瀧原章助（同）
靜物	青木昭一（函館）
洋館	古瀨キヨ（札幌）
夏の花	遠藤孝（室蘭）
窓邊の靜物	小荒井造己（三笠）
ケーブルのある風景	

Meiji

盛夏の涼味滿點！　明治アイスクリーム

各種御會合には二階ホールを
御氣輕に御利用下さい

明治製菓札幌賣店

（〒4360）

楡の風景	池田正之助	（札幌）
ある一角	萩原勇雄	（釧路）
土倉	三笛三郎	（函館）
田植の頃	松田實	（美唄）
山のサトウさん	小野垣哲之助	（岩内）
婦人像	渡邊裕一郎	（小樽）
坐像	鈴木茂	（小樽）
洋裁室	砂田友治	（札幌）
鹽鮭と包み	三上惠美子	（札幌）
夏の靜物	酒井嘉也	（倶知安）
風景		

新會友

靜物（チューリップとパン）	松本伸子	（札幌）
風景		
タンクのある風景	志村邦猛	（名寄）
工場の見える街	田中吉藏	（室蘭）
工場遠望	笹谷武	（同）
運河	小向昭一	（厚岸）
山野	横山順一郎	（苫小牧）
小路	池田正文	（函館）

知事賞

靜物（A）	三津谷理與子	（函館）
同（B）		

正しく美しく

貴方の御召物は
いつも良い品漸新な
皆様の御店狸小路の

生地と洋服の……

曇日	豊田壽生（小樽）
街	長谷川晶（函館）
秋	松尾幾子（札幌）
サイロのある風景	菊地茂雄（同）
少女	蛯子善悦（函館）
風景（A）	加清純子（札幌）
同（B）	萬谷藤男（三笠）
夜の構圖	谷口一彦（札幌）
雪景	小林一雄（釧路）
正午の街角	大垣陽一（函館）
晩春	池田甚三郎（同）
靜物	村元俊郎（苫小牧）
樹間	青木泰子（札幌）
靜物	竹内豊（琴似）
風景	山口榮子（岩見澤）
畠景	大上行子（札幌）
雪景	中村嘉平（亀田）
デンケータのある靜物	田周平
窓	
花	
家	
靜物	

大丸專屬

製造卸商

道内が誇る額縁店

油彩縁

水彩縁

肖像縁

服部勇三郎

札幌・北一・西一〇

新會友

青年像　平川　勇（函館）
婦人像

（彫塑、工藝、版畫）

エヴアンス先生像　會員　山内壯夫
裸婦　會員　本郷新
小田觀螢蚓像　會員　伊本淳
體教者の首　會員　橋本三郎
首　谷口百馬（美幌）
ノノコ・サリヌンの像

市長賞

みさ子の像　猪俣鐵雄（札幌）
少女　田中裕（札幌）
手の習作　亀松吾郎（函館）
鳩
花瓶　會員　宮下貞一郎
八角鉢
男體山　會員　前田政雄
青木湖晩秋
擴大せ鉛製頑具の圖　會員　川上澄生

營業品目

文房具・事務用品
紙製品・和洋紙

苫小牧製紙代理店　本州製紙代理店
十條製紙代理店　北日本製紙代理店

株式會社　服部紙店札幌支店
札幌市大通西二丁目七番地　〒161・812・1469

模寫の思い出

田中忠雄

パリにつくとすぐルーブル美術館で模寫をする手續きをした。手續と云つても簡單なもので、三カ月分の入場パスと模寫許可證の兩方を貰うことで小さな自分の寫眞を添えて料金を拂えばすぐ片づく程度のものであつた。

模寫をすることは日本を立つ前向井潤吉君の話をきいて自分もこれによつて油畫の技法の秘密をさぐりたいと思つた。而し私は向井君ほどの凝り屋でないから彼の樣に澤山の時間をかけて量、質共に立派なものを作る自信はなかつた。而しいよ〳〵やり出して見ると面白くなり、あれもこれもと結局一カ年間位ルーブルに通つて了つた。

一番始めにミレーの「グリービエの教會」二十號を手がけた。それはミレーのものをと云う日本での豫約があつたのと技法の上で割合入り易いと思えたからであつた。

併しやつて見ると筆の細いのと調子の深いのに弱つた。相當出來た積りでも原畫と並べて遠くから見ると自分の方のが全く淺いので甚だ自信を失うのであつた

その頃木下義謙さんが十九世紀の部屋でドラクロアの「アルヂリアの女」をやつていた。百五十號位だつたと思う。木下さんは現在でも相當細い寫生をする人だがこの模寫も正確でドラクロアの色もよく出ていたと思う。併し模寫では小堀四郎君が一番だつた。小堀君は小磯、猪熊と美校同期の秀才だつたが歸國後は信州の山の中に引込んで畫壇に顔を出さない。彼のレンブラントの「バサベー」（浴みの女）は一年位かゝつてたが之はルーブル隨一、模寫に來ている各國のエカキの賞讃の的だつた。日本に持つて歸つて今誰の手に渡つてるか知らないが國立博物館にでも寄託し、何時でも見ることが出來たらどんなにいゝかと思う。

ミレーを濟ましてから私はベラスケスを二枚やつた。マネー、ルノアルに深い影響を與えたベラスケスの技法は非常な勉强になつた。それから私は何をやろうかと色々迷つた。レンブラントの「エマオのキリスト」チシアンの「兎と聖母」ヂョルヂオネの「田園の合奏」など候補になつていたがどれもこれも三カ月位

はかゝりそうなのでそうすると段々自分の製作の時間に喰い込むのでその邊で切上げることにしたがやつぱり見切れず結局クールベの「革帶の自畫像」をやることにした。クールベは誰も他にやつた人がない樣だし、又彼の技法は直接自分の製作に一番役立つ樣に思われたからである。

之は四十號大であつたがカンバスの選擇を誤つた爲途中でやり直して結局は三カ月かゝり、それも未完成で切上げて了つた。クールベはやつて見てつくづく彼の技術の素晴しさに打たれた。レンブラントと共に油畫具技法の最高峰であろう。

この模寫五點のうちベラスケスとクールベの二點が戰災で失われた。かえすがえす殘念である。

チヤタレイ新夫人

森本三郎

きくところによればコニイ嬢はクリフオド氏と結婚直後から戰爭のためまことにめぐまれない性生活をおくり、クリフオド氏の森番メラーズ氏と戀の深みにおちいるにつれて〝チヤタレイ夫人〟の名を馳せた。ロレンス氏がメラーズ氏とチヤタレイ夫人との戀愛の過程で必然かくなるべきところの書かいでもすまされるごく一部分の特に秘事中の秘事を筆にまかせてあばきたてたため文字にかゝれた秘事もまた得難いナ、などと人々の好奇心をかきたて注目されることに相成つたものであろう、私はロレンス氏の書いたものは何一つ讀んでいないので、とやかくいうことは出來ないが、人々の話題は常に内容の中心から、それているようである。思うに不能者クリフオド氏、能力者メラーズ氏一種の戰爭未亡人、若きチヤタレイ、とその筋書は平凡な類型であつても典型でないことがうかゞわれロレンス氏の傑作だとしても、いわゆる名作ではないとい

★ ★
盛夏服地
中元進物用ニユールツク服飾品
洋裝 カナリヤ
〒サツポロ南一・西二
四八六六
★ ★

えるようである。アナトール・フランス氏の現代物語では、ハンカチで顔をおゝいサロンのソファーに横たわる教授夫人は、その夫がその傍を通り教授の愛弟子がうろたえても悔恨がわかないのである、アナトール氏はそれを〃現代〃だと教えている、私の知る〃現代〃の範圍では戰後派の夫が妻と合議の上、お互が相手を交換し合つたというのと、麻雀友達が電燈を消した座敷で各人の妻を放し身體にぶつかつたところで油つこい仕義に及ぶというのであるがつまり〃現代〃はロレンス氏が既に類型であり、アナトール氏の愛弟子のように見苦しくウロタエないということで性の考え方がモラルの基準をふつとばして遊戯化しているのではないかと思われる、遊戯は罪悪にはならないだろう、まあ、私はこういう轉換にあつても精神が硬化しているので、とくにとりたてゝ感慨にふけるものはないが、チヤタレイ新夫人達の不潔な顔だけは、のぞいてみたいと思つている。

六月の或る日曜日

小川マリ子

先日來兩人とも少し疲れたので、今日のS會の研究會は朝の間サボッて午後出席。丁度い氏の講演の終り頃だつた。會が終つてからO氏とMと三人で水道橋からお茶の水の方に歩いた。よく晴れて夕方の靜かな光線が美しかつた。東京でもこのあたりは美しい場所の一つだろうと話し合つた。驛近くの明治書房によつてみた。新しい畫集が色々入つていて三人ともワクワクして了う。こうあつてはどうもそわ〳〵して落ついて

學用品と
事務用品
ナンバ文具店
札幌十字街
電四〇七番

全道美術協會 小史

一九四五年十一月協會を設立

一九四六年六月春季展を札幌丸井で開催、協會賞、諏訪田勝衛、奬勵賞、石澤ミヨ、三上惠美子、池田豊二

一九四六年八月第一回展覽會を札幌丸井で開く受賞者協會賞、菊地又男、道新賞、鈴木傳、長官賞、池田豊二、市長賞、渡邊伊八郎

一九四七年十一月第二回展覽會を札幌丸井で開催、受賞者次の通り。協會賞、諏訪田勝衛、道新賞、國井澄、知事賞、大谷久子、市長賞、花谷時子、奬勵賞、平川勇、金丸直衛、義江清司、漆崎繁雄

一九四八年八月第三回展覽會札幌丸井で開催受賞者協會賞、宮前文平、道新賞、漆崎繁雄、知事賞、田中祥三、市長賞、遠藤未滿奬勵賞、松本伸子、八木保二、千葉七郎

一九四八年十二月地方展覽會を函館丸井で開催

一九四九年八月第四回展覽會を札幌丸井で開催受賞者左の通り。協會賞、松島鈴子、道新賞、小西葉子、知事賞松本伸子、市長賞、天野宮臧、奬勵賞小山内益郎、渡邊裕一郎、栃内忠男、

一九四九年十月地方展覽會を苫小牧王子製紙クラブで開催

見られないとMはブツブツ云い乍ら熱心に頁をくつていた。頼んだマチスの畫集はMさんが病氣していられるときいたので昨日お宅の方に送りましたという事で殘金だけ拂つた。どれもこれもほしいけれど破産して了うので、眼をつむつてボナールだけ新しく申込んだ。そしてやつと店を出た。

一休みしようと喫茶店を一、二覗いた。M「そこの店は前にタバコをサービスしてくれたよ」そこに行こう〳〵とすぐ決つて入つた。客が少くすいていた。女の子がていねいにタバコをすゝめてくれたので可笑しかつた。O氏とMの間には次第に話に花が咲いて巴里の想い出がつきないようであつた。芝居やバレーの話などきいているだけで愉しかつた。ひよつと巴里の喫茶店の一隅に腰かけている錯覺さえおこした。とゞめておきたいようなひとゝきであつた。

東横線の兄の家によるため、O氏とはずつと同道出來た。途中代々木驛で乘換え乍らホームのはずれでいよ〳〵靜かになつた今日の夕空を、もう一度嘆賞した。裕天寺の驛でO氏と別れた。

（五〇・七・八）

全道美術協會

會員會友住所錄

（順不同）

會員

谷口玉二郎　札幌市南一四條西九
國井澄　札幌市南一三條西八
宮下貞一郎　札幌市南一八條西一四
伊藤信夫　札幌市南三條西二六
山内壯夫　札幌市北六條西一九
澤田豊二　札幌市南大通り西九
小島眞佐吉　小樽市綠町四の八
森本三郎　小樽市稻穗町道新支社
國松登　小樽市富岡町一
鈴木傳　小樽市松ヶ枝町三四
池谷寅一　函館市青柳町一三
岩船修三　函館市谷地頭町二九
金子幸正　函館市時任町一七九
田邊三重松　函館市杉並町一二六
橋本三郎　函館市杉並町八九
田中忠雄　東京都北多摩郡久留米村南澤學園
岡部文之助　東京都杉並區清水町一六〇
三雲祥之助　東京都下武藏野町吉祥寺三一七
小川マリ　同
松島正人　東京都中野區鷺ノ宮五ノ一九八
菊地精二　東京都世田ヶ谷區玉川中町一ノ九七六
上野山清貢　東京都中野區沼袋九五
本郷新　東京都世田ヶ谷區世田ヶ谷二ノ一二九六
佐藤忠良　東京都澁谷區代々木上原八ノ一〇一七七
前田政雄　東京都世田ヶ谷區松原町三ノ八〇四
伊本淳　神奈川縣藤澤市鵠沼七四一四

川上澄生　宇都宮市大寛町宇都宮女校内
高橋北修　旭川市五條八
一木萬壽三　江部乙村東一
居串佳一　網走市第二天都山
小川原俊　倶知安町南一條
齋藤廣胖　有珠郡伊達町梅本
西村喜久子　茅部郡砂原村會所町一一
田邊謙輔　名寄町郵便局前二條四

會友

角谷隆一　函館市榮町一
花谷時子　浦河郡浦河町繪笛
遠藤末滿　勇拂郡安平村遠淺
諏訪田勝衛　江別町字美原
天野宮藏　茅部郡森町字御幸町一七二
千葉七郎　小樽市色内町四ノ一七
山岡三秋　岩見澤市上志文宮知製陶所
八木保二　札幌市北大通北海道新聞社内
松島鈴子　東京都中野區鷺ノ宮五ノ一九八
東政雄　函館市西川町六一
大谷久子　札幌市南八條西十八
漆崎繁雄　函館市堀川町一〇ノ三

後記

北海道にも日本で一番暑い日がありました。こゝの處暑い八月開催の展覽會々期を持つ全道展は中央展にまさるとも劣らないもので目錄の方も日本一の立派なものを出したいと希望しておりました。在京會員諸氏の樂しめる隨筆を落掌出來た事をよろこび、在札美術評論家佐野四滿美氏の玉稿を感謝致します。

文字通りあせを流し冷あせもので編集の大任を終了御世話になつた道新の大坂谷氏に御禮申上げて。……

（眞）

クレヨンなら

あおいとりAクレヨン

繪具なら

オリオン絵の具

水彩・テンペラ・水透明

良い子の描く
良い繪のために
良い材料を

小笠原商店

札幌市北三條西二丁目
電話八七六番

主　北海道新聞社
催　全道美術協会

北海道立図書館蔵書

百貨店